全酪連会報 8

2018 AUG No.635

第69年度（平成30年度）
通常総会開催される 前編

第47回 全国酪農青年女性酪農発表大会 1

若手後継者の本音／山口幹人さん

監査室だより／「ガバナンス」と「ステークホルダー」 前編

人事異動

酪農トピックス／浜頓別町 池田牧場、
自社スイーツ販売で消費者交流（札幌）ほか

日本酪農見て歩紀／宮垣俊介牧場 岐阜県高山市

ZENRAKUREN

カーフトップ ラインナップ

www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/

全国酪農業協同組合連合会

第69年度（平成30年度）

通常総会開催される

前編

本会は、７月26日㈭13時より、TKPガーデンシティ品川（東京都港区高輪）において、第69年度通常総会を開催し、平成29年度の事業実績、剰余金処分案、第十一中期次事業計画案及び平成30年度の事業計画案の承認を得るとともに、役員の改選を諮りました。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部・大野高志部長、農林中央金庫・岩曽聡常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人全国酪農協会等、関係団体から多数のご臨席をいただきました。

総会は、平野正延氏（東京都酪農業協同組合代表理事組合長）を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第9号議案「役員の選任に関する件」において、役員改選を行い、新たに役員を選任しました。なお、本総会後の理事会において、代表理事会長に砂金甚太郎氏が選任されました。

また、総会終了後の第6回監事会において、大久保克美氏（東毛酪農業協同組合・代表理事組合長）が代表監事に選任されました。

（新役員については、左記のとおり）

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。

●平成29年度事業実績及び平成30年度事業計画

（単位:百万円）

科目	平成29年度実績①	平成30年度計画②	②/①対比
酪農事業(取扱金額)	8,891	8,713	98%
購買事業(取扱金額)	73,111	73,209	100%
総取扱金額	82,002	81,922	100%
事業総利益	11,760	10,674	91%
販売費用	7,460	7,623	102%
事業管理費	2,976	2,907	98%
事業利益	1,325	143	11%
事業外収益	1,080	1,019	94%
事業外費用	618	627	101%
経常利益	1,786	534	30%
特別利益	156	0	0%
特別損失	167	107	64%
税引前当期利益	1,775	427	24%

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

新役員体制決定

～代表理事会長に砂金会長が再任、
副会長に大槻理事と小湊理事が再任
代表監事に大久保監事が再任～

本通常総会において役員改選が行われ、下記のとおりの新役員体制となりました。

●代表理事会長
砂金 甚太郎
みやぎの酪農農業協同組合
常勤

●副会長理事
大槻 和夫
茨城県酪農業協同組合連合会
非常勤

●副会長理事
小湊 保
中春別農業協同組合
非常勤

●専務理事
北池 隆
実務精通役員
常勤／新任

●常務理事
小谷 英穂
実務精通役員
常勤

●常務理事
徳永 幸男
実務精通役員
常勤

●常務理事
西村 裕之
実務精通役員
常勤／新任

●理　事
岡田 穂積
おかやま酪農業協同組合
非常勤／新任

●理　事
尾形 文清
ふくおか県酪農業協同組合
非常勤

●理　事
菊池 一郎
酪農とちぎ酪農業協同組合
非常勤

●理　事
隈部 洋
熊本県酪農業協同組合連合会
非常勤

●理　事
河野 仁
愛媛県酪農業協同組合連合会
非常勤

●理　事
小前 孝夫
大山乳業農業協同組合
非常勤

●理　事
杉浦 弘泰
愛知県酪農業協同組合
非常勤／新任

●理　事
武藤 清隆
釧路丹頂農業協同組合
非常勤

●理　事
宗像 実
福島県酪農業協同組合
非常勤／新任

●理　事
安田 憲一
千葉県酪農農業協同組合連合会
非常勤／新任

●代表監事
大久保 克美
東毛酪農業協同組合
非常勤

●常任監事
松窪 俊郎
常勤

●監　事
新里 重夫
沖縄県酪農農業協同組合
非常勤

●監　事
工藤 定幸
岩手中央酪農業協同組合
非常勤

第47回 全国酪農青年女性酪農発表大会 1

酪農経営発表の部

7月19日㈭～20日㈮の両日、広島県広島市「グランドプリンスホテル広島」において全国の酪農生産者および関係者約510人が参集し、「第47回全国酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。

本部博久さん（九州会議）が農林水産大臣賞を受賞!!

美甘正平さん（西日本会議）が審査員長特別賞を受賞!!

開会式の冒頭、「平成30年7月豪雨」でお亡くなりになられた方々へ哀悼の意を表し、参加者全員で黙とうを捧げました。

その後池田監事による開会宣言、小笠原副委員長による綱領唱和に続き、半澤委員長より、主催者として挨拶が述べられました。

「全国各地から510名を超える大勢の酪友にご参集いただき、第47回全国酪農青年女性酪農発表大会を広島で開催できますことをたいへんうれしく思います。

平成に入って最悪といわれる「平成30年7月豪雨」により広島県をはじめ、多くの西日本の地域の方々が被害にあわれました。私たちの会員、酪農家の被害も聞いております。1日も早い復興を祈念申し上げるとともに、心よりお見舞い申し上げます。

▲ 半澤委員長

さて、私がこの大会の開会にあたり、皆様方にお伝えしたいことが三つあります。

一つ目は、将来にむけて夢の持てる酪農にしていくこと、二つ目は、夢を共有できる酪農の仲間をつくること、三つ目は、夢実現のために技術と経営を高めていくことです。

夢の持てる酪農とは、将来にわたり持続可能な経営ができることです。わが国酪農を取り巻く状況は決して順風満帆とは言えませんが、これまで幾多の困難も乗り越えきました。私たち酪青女は、消費者の方々に酪農の理解を深めていく努力をしながら、私たちの経営が持続できる価格で牛乳を販売できるように発信をしていかなければならないと思っています。そして酪農の仲間をつくること。私たち酪友は技術や情報を同業者でも共有し、何でも話し合える仲間をつくれる唯一無二の業界だと思っております。今大会を通してかけがえのない酪友を作って頂けることを期待しています。

また、今日の大会には、全国から選ばれた12名の発表者の優良事例を学べるチャンスがあります。そしてこの会場には優秀な経営を実現している酪友また人が羨む酪農ライフを実践している酪友が集まっています。全国の酪友たちと、大いに語り合い、皆さんの技術と経営を高めていく絶好の機会です。

私たち全国酪青女役員は、本大会開催にあたり、酪友自らが酪友の元気を刺激し発信し、酪農業界の発展を実現できるきっかけになるよう、今日まで準備してきました。本日参加された皆さん、一つでも二つでも、この大会を通して得た元気や気付きを持ち帰ってもらいたいと思っています。

そのことが、皆様方の明日からの活力となりますことを心より願っております。そして、発表者の皆さん、日ごろの経営や取り組み、思いを、思いっきり発表してください。

この広島大会をとおし酪農の元気と夢を再認識して頂きたいと思います。」

続いて、本会砂金会長より、挨拶が述べられました。

「本日、全国各地から大勢の酪友にご参集いただき、全国酪農青年女性会議とともに、第47回全国酪農青年女性酪農発表大会を、ここに開催できますことを、大変うれしく思う次第です。

また、「平成30年7月豪雨」により被害にあわれました会員・酪農家の皆様に心よりお見舞いを申し上げますと共に、1日も早い復興を祈念申し上げる次第でございます。

我が国の酪農を取り巻く情勢は、都府県を中心に、酪農家戸数、乳牛頭数の減少が進むなど、依然として予断を許さない状況が続いておりますが、これまでもこの酪農業界には過去様々な課題がふりかかり、その一つ一つを先人たちが乗り越えてこられました。我々も、この困難を乗り越え、今後の我が国酪農の生産基盤を維持・拡大していかねばなりません。そのためにも、次代を担う後継者が希望をもって経営継承できるような環境作りに尽力していかなければならないと思っております。そのことが、国民に安全安心な国産牛乳を供給することにつながるとともに、我々も、酪農という自分たちの仕事に対して誇りを持つことにもつながると信じております。

▲ 砂金会長

皆さん、本日は昨年の北海道大会から、1年ぶりの再会です。全国から選ばれた12名の発表者の優良事例を学べると共に、日頃会うことがなかなかなわない全国の酪友たちと、大いに語り合うことができる絶好の機会であります。今日、明日と、本大会の開催を通じて得られたものが、必ずや皆様方の明日からの活力となりますことを心よりご祈念申し上げます。」

続いて、ご来賓として、最初に、農林水産省生産局畜産部畜産企画課課長補佐 古庄宏忠氏より祝辞を頂きました。

「最近の我が国酪農をめぐる情勢につきましては、牛乳・乳製品ともに消費が堅調に推移しており、20年以上減少トレンドであった牛乳の生産量は、平成27年度から増加に転じ、29年度にかけて約3％増加する状況となっております。

▲ 農林水産省 古庄課長補佐

輸出につきましても、ベトナム、台湾、香港などの近隣国の経済発展も相まって、粉ミルクやLL牛乳を中心に拡大し、昨年の輸出額は前年に比べまして15％増の約144億円に達したところでございます。

このような需要の高まりもあって、乳価も順調に上昇しており、乳用牛の飼養頭数が、本年に入って16年ぶりに増加に転じるなど、生乳生産の回復の兆しが見えたところです。酪農家の皆様には、このような機会を捉えて、生乳生産の維持・拡大に努めていただきたいと考えております。

また、去る6月13日にTPP11協定が国会で承認され、今月17日には日EU・EPAが署名されるなど、これからの我が国酪農は新たな国際環境に置かれることになります。農林水産省といたしましては、意欲ある

酪農家が安心して将来にわたって経営に取り組んで行けるよう、昨年11月に改訂された「総合的なＴＰＰ等関連政策大綱」に基づき、畜産の体質強化と経営安定を図るための各種施策を着実に進めて行くことが重要であると考えております。

さらに、我が国の高品質な畜産物の魅力を世界にアピールする絶好の機会となる２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が近づいており、ＧＡＰや農場ＨＡＣＣＰといった生産工程の見える化の取組が重要となってきております。酪農家の皆様がこうした情勢の変化に対応し、今後とも、持続的に我が国の生乳生産を担っていただくためにも、本日のような将来を担う酪農家の方々同士の交流が重要だと考えております。本大会を契機に、優れた経営の取組が広く共有され、全国の酪農家同士のつながりが強まりますよう、本大会が大きな成果を挙げることを御期待申し上げます。」

▲ 広島県 農水産振興部長

▲ 広島市 農林水産部長

この後、地元広島県農林水産局農水産振興部長の大濱清様、広島市経済観光局農林水産部長 宇都宮斉様より祝辞を頂きました。

開会式終了後、地域の代表者各6名による酪農経営発表と酪農意見・体験発表が行われ、その間に第45回らくのうこどもギャラリーの表彰式が行われました。当日は特選に選ばれた愛知県岡崎市の三浦葉さんをお母様と共に会場にお招きし、半澤委員長から賞状と記念品が授与され、会場からは大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

２日目には、第９回酪農いきいきフォトコンテストの表彰式がありました。この企画は、牛乳の生産現場を消費者に知ってもらうことを目的として開催しており、各地域より寄せられた応募作品45点を全国大会で掲示し、参加者投票による審査の結果、東北酪農青年女性会議柴田耕太郎さんの作品「あげるから、焦らないで！」が見事「特選」に選ばれ（本号表紙掲載）半澤委員長より記念品が贈呈されました。

続いて来場者から両部門発表者への質疑応答が行われ発表者の皆さんは質問に一つ一つ丁寧に答えられていました。

休憩をはさみ経営・意見体験発表の部の審査結果が発表されました。酪農経営発表の部の最優秀賞には九州酪農青年女性会議代表の本部博久さん、酪農意見・体験発表の部の最優秀賞には北海道酪農青年女性会議代表の砂子田円佳さん、また、経営発表の部において審査委員長特別賞に西日本酪農青年女性会議代表の美甘正平さんが選ばれました。

それぞれの部の審査講評・表彰が行われた後、小森副委員長による大会宣言後、小薗副委員長による閉会の辞をもって全日程を終了しました。

▼ 記念撮影

▲ 表彰式にて

酪農経営発表の部 審査講評

伊藤 房雄 審査委員長

審査に当たりましては、酪農経営の収益性、経営の安定性・発展性、飼養管理技術水準、資源循環型酪農の実践、食品の安全性への配慮、組合・地域活動の貢献という6つの大会審査基準に基づき、厳正な審査を行いました。

今回発表された6名の方々は、それぞれ異なる立地条件の中で、地域特性や地域資源を上手に活かしながら、最新技術を導入し、酪農経営の安定性と収益性の確保に努力しているだけでなく、自給飼料の確保、堆肥の利活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいる様子をうかがい知ることができ、今年もまた審査委員一同大いに感心いたしました。

それでは、審査の中で特に印象に残った点、そして今後さらに期待したい点について、発表順に申し上げます。

人と牛にゆとりある楽農を目指して

関東甲信越酪農青年女性会議 伊藤 陽一 さん

陽一さんは平成17年4月に酪農学園大学を卒業後直ちに実家に戻り就農、現在の経営概要は、経産牛46頭、育成牛29頭、飼料畑22ha（うちデントコーン7ha、牧草15ha）の粗飼料自給率100％の牧場です。伊藤牧場の特色は、良質な粗飼料生産と適切な飼料給与に基づく1頭当たり乳量の着実な増加です。良質な粗飼料生産は、コンビネーションロールベーラーを用いて、父親と適期収穫に努めています。また乳量の増加については、平成26年に搾乳牛舎の増改築に伴い導入した乳量連動式自動給餌機と乳量計付き自動離脱搾乳機がその実現に大きく貢献していることは言うまでもありません。これらの装置により、疾病の早期発見をはじめ1頭毎の個体管理が格段に向上しました。

今後は、採食性の効率化と粗飼料給餌のさらなる時間短縮を目指してTMRミキサーや自走式給餌車の導入を検討中とのこと。目標産次数5産の長命連産と心身ともに「ゆとりある楽農」の実現を期待しております。

地域営農集団による飼料共同生産・共同利用のメリット ～わが家のゆとりある経営～

東北酪農青年女性会議 遠藤 明 さん

石筵地区は、郡山市中心部から車で約30分程度の距離にあり、世帯数は近年増加傾向を示しているとのこと。同地区での酪農は、集落内の区割りされた敷地内に住宅と牛舎、機械庫などが配置され、採草は集落から車で数分の距離にある共同利用地で行われております。この共同利用地45haは、昭和23年に払い下げられた国有地の一部であり、その運営は昭和25年に設立された石筵牧野利用農業協同組合によって今日まで綿々と継続しております。稲WCSの利用も同様で、平成15年に設立された石筵粗飼料機械利用組合が地区の稲作農家47戸の水田40haで収穫受託作業を行っております。ここでの最大の特徴は、収穫された牧草や稲WCSが構成員によって購入する形で平等に配分されている点にあります。このような地域資源を活用した粗飼料の共同生産・共同利用が「労働のゆとり」を生み出し、それが「牛群管理のゆとり」へと繋がり、それによって相応の経済的成果がもたらされていることは、賞賛すべき取組と思われます。

今後は、地区の酪農経営の減少が予想される中で、これまで以上に自給飼料確保に向けた共同生産・共同利用を発展させていくことが求められていくことから、牧野組合の共同利用地を核とした地域酪農法人を立ち上げ、高い生産性とゆとりのある地域酪農の展開を期待しております。

負のスパイラルからの脱却 ～経営改善へのプロジェクト～

中部酪農青年女性会議 後藤 康弘 さん

24歳のときに実家の後藤牧場に就農した康弘さんは、自らの飼養管理の失敗から悪化した経営を立て直そうと規模拡大を図りますが、分

娩頭数の減少、出荷乳量の減少から経営は負のスパイラルに突入し、1，000万円を超える未払金を発生させます。このような後藤牧場の負のスパイラルを解消させたのが、富士開拓農協、飼料会社、コンサルタント、獣医師等から構成されるプロジェクトチームです。PTの指導で、繁殖の改善、牛舎環境（カウコンフォート）の改善、農協TMRへの切り替えに伴う省力化と牛の観察時間の増加、等々に取り組むことにより、収益性は改善し、先の未払金は2年間で完済できました。客観的なデータに基づく専門家のアドバイスの有用性が実証された好事例と思います。今後は、これまで考えることもできなかった経営継承を家族で検討するとともに、自らの経験を地域の仲間達に伝え、地域全体の発展に繋がっていくことを期待しております。

足寄型放牧酪農から足寄型実践牧場へのステップアップ

北海道酪農青年女性会議
佐藤（さとう） 伸哉（しんや） さん

佐藤牧場は、祖父の辰治さんが戦後開拓として山形県から入植し、入植後10年目の昭和32年に乳牛を導入したことから始まりました。佐藤牧場は現在、経産牛75頭、育成牛56頭、採草地・放牧地・兼用地として約91haを有し、足寄型の集約放牧酪農、具体的に佐藤牧場では一区画約1haの牧区を20区画分整備し、5月～10月の期間中に牧区をローテーションしながら昼夜放牧するスタイルを実践しています。

佐藤牧場の特色のひとつに、ニュージーランドやオランダの種雄牛の精液を活用している点が挙げられます。産乳能力もあり放牧向きで近交係数の低下にも貢献するニュージーランド種雄牛は、体型がコンパクトになることから体高や体長の大きな牛に授精させるように配慮しています。もうひとつの特色に、スマートフォンアプリ「ファームノート」を積極的に活用している点が指摘できます。出先や放牧地からデータを確認し、ラップサイレージの調製や個体毎の繁殖管理等を徹底している点は、多くの酪友にとっても参考にすべき点かと思います。

このほかに、管内の肉牛繁殖搾乳農家とフリーストール農家、それとご本人の放牧農家の3戸共同で一般社団法人「ふぁむふぁむ」を設立し、多様な形態の研修先として新規就農者を受け入れ、地域に定着させる活動を展開している点もユニークで高く評価されます。このことは、後継者不足が深刻化している都府県の多くの酪友が参考にすべき取組と思います。

地域に必要とされる攻めのジャージー酪農

西日本酪農青年女性会議
美甘（みかも） 正平（しょうへい） さん

美甘牧場は、昭和35年に正平さんの祖母蔦子さんがジャージー牛1頭を導入したことから始まりました。父親の代に着実に経営規模を拡大し、正平さんが中国四国酪農大学校を卒業して就農した時点では50頭規模にまで達していました。その後、2世帯が安定した収入を得るためにはさらなる規模拡大が不可欠と考え、正平さん自らが平成19年に80頭牛床のフリーストール式牛舎を新築、翌年には育成牛舎の増築とフリーバーン式乾乳牛舎の改造にも取り組みました。これら一連の飼養形態の変更に伴い、飼料給与も分離給与からTMR給与へと変わり、作業内容も大きく変わりましたが、結果的に、経産牛1頭当たり労働時間は大幅に削減し、個体乳量も増加しており、美甘牧場、すなわち美甘正平さんの飼養管理技術の高さを物語っております。

美甘牧場の特色は、34haの牧草地でチモシー、オーチャード、リードカナリーを活用した自給飼料型酪農を展開しているほか、自給飼料のロールを圃場毎にロット管理することで栄養成分のバランスを考慮した飼料給与管理を徹底し高泌乳を実現していること、乾乳期とフレッシュ期での個体管理を徹底することで疾病の予防と高い繁殖成績を実現していること、餌寄せロボットの導入や、暑熱対策としてNASAが開発した遮熱塗料クールサームを牛舎に施工していること、等々が挙げられます。

今後は、地域内で多くの稲作農家がリタイアしていくと予測されることから、水田活用による自給飼料率のさらなる向上と地域資源管理を含めた蒜山の地域産業の核となることを期待しております。

わくわくする酪農経営は地域と共に！

九州酪農青年女性会議
本部 博久（ほんぶ ひろひさ）さん

両親に憧れ宮崎県立農業大学校に入学、平成9年に卒業後直ちに就農した博久さん。その後親子2世代でさらなる規模拡大を図ってきた平成22年4月20日に宮崎県で口蹄疫が発生し、本部牧場では同年6月17日に122頭全頭殺処分。牛のいない生活の中で廃業せざるを得なくなった農家との出会いから酪農再開を決意し、中断していた牛舎の新築工事を再開。そして、万全の防疫体制を整備して、同年11月1日に新しい牛舎に牛を導入。現在、本部牧場は、労働力5人（本人夫婦、両親、常時雇用1人）、経産牛118頭、育成牛82頭、牧草地21haの自給飼料型酪農を展開しております。

本部牧場の最大の特色は、⑴牛舎入口での動噴バイオセキュリティと牛舎環境および搾乳処理室の衛生管理の徹底、⑵ＩＣＴや監視カメラ等を活用した繁殖管理、分娩および発情発見の状況、個体乳量等の効率的管理、⑶下痢の発生抑制を意図した胃汁移植にあります。このほかに、北海道への育成牛預託事業を活用した労働力の軽減や、管内の和牛肥育農家と連携して「ＪＡ児湯酪農受精卵協議会」を設立し、地域の一貫肥育システムを確立していることなども優れた取組として評価できます。

今後は、２５０頭の飼養規模を目指して、次世代型閉鎖牛舎の建設や搾乳ロボットおよび哺乳ロボットの導入を計画しているほか、地域で計画しているＴＭＲセンターやバイオガスプラントの建設にも参画を検討しているとのこと。先端技術を積極的に取り入れるとともに、地域のリーダーとして活躍されることを期待しております。

▲ 半澤委員長によるフォトコンテスト入賞作品紹介

審査結果についてですが、今回は非常に悩ましい審査となりました。6名の審査委員の評価結果は、明らかに上位2名の経営が極めて優れていることを示しておりましたが、両者の評点は拮抗し、まったく甲乙つけがたい内容でした。両者の飼養管理技術水準が高いことに疑いはなく、酪農経営の収益性と安定性には一長一短があるものの、組合と地域活動への貢献も突出しておりました。そこで6名の審査員で何度も両者の長所と短所について検討を繰り返し、ようやく全員一致の合意を得ることができました。最終的に結論づけた要因は、イノベーション（技術革新）の積極的な導入です。酪農経営の減少と労働力不足が深刻化する日本の酪農のこれからを考えるとき、生産性を高め、高品質かつ安全・安心な生乳の生産をもたらす先端技術、すなわちスマート畜産を特徴づけるＩｏＴやＡＩを活用した先端の畜産技術が不可欠となることは言うまでもありません。特に、明確な将来ビジョンと確かな飼養管理技術を有する経営において、先端技術の導入は経営発展の可能性を高め、その実現速度を加速させると考えられるからです。今回の審査では、このイノベーションの積極的導入という一点において、わずかながら一歩リードしていた九州酪農青年女性会議の本部博久さんの経営を最優秀と致しました。

なお、惜しくも最優秀の選には届かなかったものの、高い技術水準と若くして優れた経営者能力を遺憾なく発揮して、地域の酪農産業の中核となっている西日本酪農青年女性会議の美甘正平さんに、審査員長特別賞を授与することと致しました。

本部博久さんの経営も美甘正平さんの経営も、タイプは異なるものの、多くの酪友にとって模範となる経営であることは改めて述べるまでもありません。

最後に、会場にお越しの皆様におかれましては、6名の方々の発表をお持ち帰りいただき、それぞれの経営や地域の酪農発展のためにご活用していただければ幸いに存じます。

（酪農意見・体験発表の部は次号に掲載します）

地域の紹介

現在の埼玉県本庄市は、平成18年に旧本庄市と旧児玉町が合併して誕生しました。上越新幹線本庄早稲田駅を中心に埼玉県の北の玄関口として、近代工業や大手スーパー量販店も進出するなど、商工業の中心となっています。また農業では肥沃な農地に恵まれ、主にネギやきゅうり、いちごなどを首都圏などに出荷しています。旧児玉町では「塙保己一最中」が和菓子として地元で愛されており、「日本神社」の青いだるまは、ワールドカップでなでしこJAPANが優勝した際の縁起物として重宝され、青いだるまを祈祷してサッカー日本代表へ寄贈する神社として有名です。

幹人さん

今回は、**埼玉県本庄市 山口牧場**の後継者**山口 幹人**さんにお話を伺いました。

牧場の紹介

今回ご紹介する山口牧場は、本庄市の中でも旧児玉町に位置しており、埼玉酪農業協同組合（木本栄一代表理事組合長）に所属し、搾乳頭数25頭、育成5頭を飼養しています。祖父の代から酪農経営が始まり、老朽化に伴って昭和52年に新牛舎を建設しました。労働力としては、経営主の山口勝久さん、経理担当の照子さん、後継者の幹人さんの3名です。2年前に勝久さんが怪我をされてからは、幹人さんが勝久さんの負担を考慮しながら、搾乳、給餌、掃除、堆肥処理を2人で行なっています。

就農までの経緯を教えてください

幼い頃は姉と共に牛舎に来て遊んだり、祖父や父の作業を見ながら、牧草の上で寝てたりしていました。その頃から漠然と酪農の仕事に携わるのかなと思っていましたが、部活に打ち込んだり、機械系の学校へ進学するなど、どんどん酪農からかけ離れていきました。機械関係の仕事に就職して4年経った頃、客観的に酪農という仕事を見て、今後の長い人生を考えた時に、幼い頃から見ていた酪農の方が人生設計しやすいと感じるようになりました。酪農家の長男という意識もありましたが、旧児玉町が好きなので、見慣れた土地で就農しようと決めました。当時は酪農についてほとんど知識がなかったため、様々な酪農を見てみようと思い、北海道の牧場でアルバイトを始めました。搾乳頭数150頭規模の酪農家にて搾乳ロボットを活用した大規模経営は、飼養管理や繁殖管理など難しい部分が多いと感じましたし、その中でどのように作業を効率良く行うべきか、家族経営と比較しながら学んでいました。

牛舎全景

就農して感じたこと

酪農は命を預かる仕事なのだと改めて感じました。体調が悪い牛はとても気になりますし、やむを得ず死んでしまった牛には心が痛みます。繁殖に限らず、牛1頭1頭を良く見るようにしています。

また、機械関係の仕事をしていた際は、お客さんを相手にしていましたが、就農して間もない頃は、自分自身がお客さんと見られる事に不思議な感覚でした。今は、自分で考えながら自由に仕事をしていますが、父親が怪我をして1人で酪農することになった時、周りの人が助け

若手後継者の本音 Vol.33

本会TMR製品

飼料タンク

旧牛舎

牛舎内

［経営概況］

所　　属　埼玉酪農業協同組合（木本栄一代表理事組合長）
家族構成　山口勝久さん、照子さん、幹人さん
飼養頭数　搾乳頭数25頭、育成５頭

日々考えながら、より良い牧場を目指して

てくれたので、組合や周りの農家さんとの繋がりの大切さを改めて感じました。その心は決して忘れてはならないし、自分自身も何か手伝える事は積極的に行うようにしています。

就農してからの取り組み

水飲みの設置が不十分なところもあり、ウォーターカップの位置や配管を父親と一から作り直しました。また、機械関係の仕事をしていたので、古くなったトラクターやダンプカー、バンクリーナーなどは部品を購入して直したり、使われなくなった鉄板を溶接して給餌用の運搬車の修理に活用しました。その他にも扇風機のメンテナンスを行なうなど、牛舎環境をより良くするために、考えながら自分自身の手で変えられるのは、とてもやりがいを感じます。

地域の人との繋がり

埼玉酪農では児玉郡市支部として毎年数回行事があるため、その都度参加しています。支部の中では最年少ですが、幼い頃から知っている酪農家さんもいるので、交流するようにしています。他にも埼玉酪農青年部の集まりや児玉郡市だけの酪農の集まりに参加して情報交換するようにしています。また、周りの農家で自給飼料の収穫時期になれば配送も含めて手伝うこともあります。

今後の目標について

限られた時間と労働力の中で、今よりも搾乳頭数を増やして乳量で稼ぎたいと考えています。ある程度作業効率を考えながら、年間通じて安定的な乳量を保ちたいです。今後は、パイプラインや扇風機など、設備の更新や増設を検討しているので、将来の投資を見据えた経営を具体的に進めていきたいです。また、基本的な事かもしれませんが、牛の体調が分かる〝目〟を持って、時期に合わせた飼養管理と繁殖向上を目指していきたいです。

就農に迷われている人へ

酪農があまり分からない中で私は就農を選びましたが、何事もやってみないと分からない事が多いと思うので、とりあえずチャレンジしてみて、それから考えるのも遅くはないと思います。意外と酪農以外で考える事が多く、周りの地域を見ながら進める部分もあるので、想定外を楽しむ気持ちも大事かと思います。

全国の若手後継者の皆さんへ 一言！

周りの人への感謝の気持ちを忘れずに、お互いに頑張っていきましょうね。

「ガバナンス」と「ステークホルダー」前編

企業や組織の不祥事は後を絶ちません。その発生や発覚した件数も月間2桁は起こり続けている昨今です。

「そんなにあったかなぁ?」と、思い起こしてみると確かに起こっているのです。全国のテレビや新聞等で連日報道が続くような大きな不祥事から、地域のテレビや新聞に一度程度報道される不祥事まで、様々な不祥事が起こっています。(この期近1~2ヶ月を遡って、ザッと思い起こすだけで2桁になるはずです。)

それら不祥事を「大・小」で比較することは適切ではありませんが、それら不祥事による被害は直接的な被害を与えるものから、二次的さらに三次的に被害を発生させるものもあります。

『内部統制の構築』や『内部統制の強化』と言われ始めたのは、平成18年6月に成立した「金融商品取引法(金商法)」がキッカケです。

この法律が、企業や組織の経営者に対し『内部統制』の構築や強化の必要性を促し、企業や組織はそのための取組みに注力し、健全・良好な企業(組織)風土や経営を確保する活動を求めさせています。

1 ステークホルダー

「ステークホルダー」とは、企業(組織)が事業活動を行う際に関わる様々な利害関係の相手方です。

一般企業であれば、株主や取引先、一般消費者、社員です。

農協組織であれば、出資者である生産者や会員、農畜産物等の販売先や一般消費者、生産資材等の仕入先、そして自農協組織内で働く職員です。

従って、それらステークホルダーは多岐に渡ります。

特に、農協組織は、農畜産物を取扱うことが事業の柱であり、農畜産物は日本国内のみならず、海外を含めた全ての人々が一般消費者としてステークホルダーになるため、その利害関係の範囲は非常に広く、規模も非常に大きなものとなります。

2 ガバナンス

皆さん、「ガバナンス」の意味は〝耳タコ〟でしょうが、〝統治〟や〝管理〟という意味です。

3 コーポレート・ガバナンス

「コーポレート・ガバナンス」は、『企業統治』や『企業経営』と訳される言葉ですが、企業や組織が健全な事業運営を行うための管理や仕組みのことです。

企業の不祥事が発生や発覚するたびに、「当社のガバナンスは…。」とのコメントが現れますが、その意味は「当社の経営管理は…。」という意味となり、さらに「当社の内部統制は…。」という意味に繋がります。

4 コーポレート・ガバナンス・コード

「コーポレート・ガバナンス・コード」は、『企業統治における行動規範』などと訳され、前述した「コーポレート・ガバナンス(企業や組織が健全な事業運営が行うための管理や仕組み)」において、守るべき事項を定めた規範(原則)です。

この言葉の場合の『コード(code)』は「規範」という意味で、「記号、暗号」という意味ではありません。もちろん「紐(cord)」でもありません。

「コーポレート・ガバナンス・コード」は、東京証券取引所と金融庁が平成27年6月に定めたものです。

その「コード（規範）」が先般平成30年6月に一部改定がなされましたが、制定当初に定められた上場企業が自ら企業価値を高めるために取り組むべき5つの基本原則は不変です。

この5つの基本原則とは、

①株主の権利・平等性の確保
②株主以外のステークホルダーとの適切な協働（同じ目的のために協力して働くこと）
③適切な情報開示と透明性の確保
④取締役会の責務
⑤株主との対話

です。

従って、事業活動において、これらの原則への対応を充実させることが、ステークホルダーとの信頼の構築と維持に繋がることとなります。

5 ガバナンスとステークホルダー

前述の5つの基本原則への対応は、会社法の下で活動する上場企業の取組みですので、そのまま農協組織が取り組むことはできません。

しかしながら、会計監査人の設置の義務付けなど、会社法の一部の規定を準用した平成27年改正農業協同組合法（改正農協法）を含め、農協組織は、これらの5つ対応を成すことにより、より組織価値の向上に繋がる経営が目指せるものと考えます。

特に、②の対応である「株主以外のステークホルダーとの適切な協働」におけるステークホルダー、特に従来以上に多様な販売先や一般消費者などとの協働においては、その目的を相互が理解し設定するには時間を要するものの、農協組織にとっては効果的な組織価値の向上に繋がるものと考えられます。

現在、農林水産省ホームページに掲載されている農業協同組合連合会の経済事業に関する検査マニュアルでは、「経営管理（ガバナンス）態勢の整備・確立」がトップの検査項目になっています。

また、その検査マニュアルには適切な「ガバナンス」が行われているかの確認を内部監査態勢に関する代表理事、理事、監事及び内部監査部門の活動状況を検証する方法にて行うように示されています。

最初に述べたように、企業や組織の不祥事は後を絶たない状況です。

1件の不祥事は、それまで良好な関係であったステークホルダーから「ガバナンス」を問われ、その責任を追及され、賠償等を請求され、そしてステークホルダーも離れ……。

以上のことから、ステークホルダーがその企業や組織に求めるものは、適切な「ガバナンス」が常に存在し続け、そのための内部監査態勢も常に良好であり続けることであると思います。

そして、今後、その求めは更に高まっていくものと考えます。

参考文献

①「コーポレートガバナンス・コード（2018年6月版）」
（株式会社東京証券取引所ホームページ）
www.jpx.co.jp/equities/listing/cg/index.html

②「コーポレート・ガバナンス」
（フリー百科事典『ウィキペディア』）
ja.wikipedia.org/wiki/コーポレートガバナンス

③「ステークホルダー」
（フリー百科事典『ウィキペディア』）
ja.wikipedia.org/wiki/ステークホルダー

④「新農業協同組合法（第2版）暫定補正版」
（全国農業協同組合中央会）

⑤「協同組合検査実施要領
（別添11 経済事業を行う農業協同組合連合会に係る検査マニュアル；平成30年3月30日最終改正）」
（農林水産省ホームページ）
http://www.maff.go.jp/j/kensabu/chosei/kensa/

日本酪農 見て歩紀 No.303

▲ 左から俊介さん、栄祐くん、真理子さん、万結子ちゃん、希美子さん

宮垣俊介牧場
岐阜県高山市

地域に根ざした環境型保全農業の取り組みと自家育成牛による規模拡大を目標とした酪農経営

地域の紹介

岐阜県高山市は、飛騨山脈（北アルプス）を擁する山岳地帯に位置し、江戸時代は城下町として栄え、今でも古い町並みが多く残り、その景観から「飛騨の小京都」と呼ばれています。数少ない「日本の原風景を残す街」で、多くの観光客が日本はもとより海外からも訪れます。特に春と秋に開催される高山祭には大勢の人たちで賑わいます。

▲ デントコーン圃場と宮垣牧場

この地域は内陸性気候と日本海側気候を併せ持ち、昼夜と夏冬の温度差が大きく、冬期には豪雪になることもあります。

飛騨酪農農業協同組合（飛騨牛乳）（代表理事組合長 馬瀬口 弘志 氏）は、平成21年4月高山市に新しく工場を竣工しました。乳業工場は最新鋭の設備を備え、「飛騨牛乳」ブランドの牛乳乳製品、アイスクリームなどを製造しています。

地元岐阜県を始め、中京圏、関西、関東、と広く商品の販売を行っています。

特に飛騨酪農農業協同組合（飛騨牛乳）がこだわりと自信を持ってお勧めする【パスチャライズ飛騨】【北アルプス厳選牛乳】は非遺伝子組換

飼料を与えた生乳のみを使用した酪農家限定の牛乳で消費者の方々から絶大なる支持を得ています。

今回は、岐阜県高山市八日町で酪農を営んでいる宮垣俊介牧場を紹介します。その非遺伝子組換飼料を使用した生乳を生産している酪農生産者の仲間の1人であり、地域の活性化に向けて精力的に活動をされている方です。

▲ パスチャライズ 飛騨

▲ 北アルプス 厳選牛乳

飛騨の酪農概況

飛騨酪農農業協同組合（飛騨牛乳、管内は高山市、下呂市）は、酪農家戸数18戸、乳牛飼養頭数1，260頭で、生乳生産量10，847t（平成29年度）となっています（内 Non-GMO 1，877t）。

酪農形態は家族経営が主体で、自給飼料生産も盛んで、平成29年から耕種農家と連携した稲WCSの利用も行われています。また肉牛繁殖・肥育経営も盛んで、和牛は「飛騨牛」の名称で知られています。

経営の概況

宮垣牧場の家族は、俊介さん（39歳）、妻の真理子さん（38歳）、長女の万結子ちゃん（5歳）、長男の栄祐くん（3歳）そしてお母さんの希美子さん（65歳）の5人家族です。更にこの記事が紹介される8月には待望の3人目のお子さんが出産予定ですのでその頃には6人家族となります（おめでとうございます）。

酪農のはじまりは、戦後間もない昭和22年に俊介さんの曽祖父が乳牛を飼い始めたのがきっかけです。

▲ 搾乳牛舎

経営規模は、経産牛38頭、育成牛34頭（内 県営育成牧場の東濃牧場に15頭預託、北海道3頭預託）です。

経営の概況は左表の通りです。

生乳生産量	398 t（平成29年）
搾乳牛平均乳量	32.7kg／日
経産牛平均乳量	10,775kg／年（平成29年度 牛群検定）
乳質：	
乳脂肪	4.28%
乳タンパク質	3.39%
無脂固形分	8.91%
体細胞数	16.1千／mℓ（直近1年平均 牛群検定）

▲ 自給飼料を採食する育成牛群

作業分担は俊介さんが全般管理を行います。特にTMR調整、飼料の給与、圃場の管理、搾乳などで担当しています。お母さんの希美子さんは搾乳、仔牛全般の管理、経理を担当しています。

妻の真理子さんは地元の飛騨家畜保健衛生所に勤務し獣医として地域の畜産生産者の経営支援に活躍されています。

自給飼料の生産と稲WCSの利用

チモシーを主体とした自給粗飼料約4haの作付けを行いロールサイレージとして主に育成牛に給与しています。

またそれ以外にも俊介さんともう1人の酪農生産者2戸で約12haデントコーンを作付けしており、タワー

▲ 稲WCS

◀ デントコーン圃場

サイロとバンカーサイロを用いてサイレージを作製してこれも年間を通じて主に搾乳牛に給与しています。

さらに平成24年より取り組みが始まった稲ＷＣＳは地元の２つの営農組合がそれぞれ10ha及び19haを作付け、出来上がった全ての生産物を６戸の酪農生産者が買い付け６戸で按分します。年間を通じて利用し主に乾乳牛に給与します。

これら年間を通じて安定した自給粗飼料を主体とする飼養管理を基本として、更には高泌乳牛の搾乳牛に対しては購入乾牧草（クレイングラス・スーダングラス・オーツヘイ・アルファルファヘイ）を別途給与することで適切な飼養管理を行っています。

ＤＭＳシステムの利用

平成24年1月からＤＭＳシステムを始めて7年目になります。毎月ＤＭＳシステムを利用している6戸の方が集まり入力会を行っています。経理担当である希美子さんはＤＭＳシステムを始めてからは資金繰りが分かりやすくなり、また1頭あたりの収益性が分かるようになったので、経営に関する意識が変わったと俊介さんとともに話していました。

酪農組織として活動 青年部、酪青女

俊介さんは酪農青年部部長として組合運営に参加しています。組合の乳業工場周辺の環境美化、乳製品販売促進の手伝い、高山市長への牛乳普及活動としての贈呈など様々な活動を行っています。また同時に岐阜県酪青女委員長として他の地域との交流も盛んで地域を超えた繋がりが出来ています。

Ｎｏｎ-ＧＭＯの考えについて

地形的にも諸条件が不利な飛騨の酪農を維持するために「飛騨牛乳ブランド戦略」に基づき「農家が真心をこめて育て絞った生乳を安全安心で美味しい飛騨牛乳製品を消費者に届け続ける」との強い意志を持って飛騨酪農農業協同組合は組合経営を行っています。そのブランド戦略の一つに「非遺伝子組み換え飼料（Ｎｏｎ-ＧＭＯ飼料）を与えた生乳のみ使用」した飛騨牛乳製品を消費者に届けています。その組合経営の方針に賛同し俊介さんは以前よりＮｏｎ-ＧＭＯ飼料を利用して酪農経営に取組んでいます。牛乳が安く売られていく中、ブランド戦略を明確にして差別化を図ることで飛騨の牛乳を守ることにも繋がっていくと俊介さんは語っていました。

▲ 飛騨牛乳ブランド

▲ 飛騨酪農協（飛騨牛乳）

農協監事としての抱負

俊介さんは平成23年6月30日より組合での監事として組合運営に携わっています。組合経営の健全化を第一と考えています。組合員が減少していく中で生乳生産量をどの様にして維持していくのか、またどうやって利益を出していくべきなのか日々自身の酪農経営と合わせてこの問題に取り組んでいます。

目標と将来の夢

現在、繁殖成績を上げることを目標に第一に取り組んでいます。分娩数の増加による副産物にも注目しており、今後交雑種、ＥＴ和牛への種付けも検討しているそうです。

また近隣の廃業した牛舎を買い取り、本牛舎の移転を計画しています。現在の牛舎は育成牛舎に特化して、移転先の牛舎を搾乳牛舎として自家産育成牛を中心として現在の39頭から倍の80頭を目標に増頭計画を立案しています。それに合わせて将来的には外部からの雇用も検討しているとの事です。

終わりに

全国的に猛暑が続く中、岐阜県高山市も暑い日々が続いていて水不足が懸念されていました。

取材当日は台風が迫ってくる中での忙しい折に快くご協力頂き有難うございました。取材の中で屈託のない笑顔でお答えになる姿や地域と連携して活動を行っていこうとする考えに深く感銘を受けました。これからもしっかりと地元に根づいて将来見つめ続ける宮垣牧場のご健康とご発展を祈念します。

仙　台
支所発

「スポーツ交流会」開催！
―岩中酪青年女性会議―

去る７月７日㈯に、岩中酪青年女性会議（桜井善会長）主催のスポーツ交流会が、岩手県盛岡市の岩手中央酪農協（工藤定幸代表理事組合長）にて盛大に開催されました。

当日は、100名を超える組合員が雨天にもかかわらず参集しました。桜井会長は開会式で、『朝からの激しい雨の中、こんなに多くの方に集まっていただいたこと大変感謝します。この元気が、岩手の、東北の酪農を支えている原動力です。ケガが無いよう１日楽しみましょう。』と挨拶しました。

競技は、遠野地区に伝承される河童伝説をイメージした「キュウリ早食い競争」、長短取り混ぜられた束から引き当てたトワインをリレーで結びながら一早くゴールを目指す「トワイン結びレース」、長さ・太さの違うストローを使っての「牛乳早飲み競争」など、お年寄りからお子さんまで誰もが参加できる競技が用意され、終始大きな歓声と笑い声に包まれながら進められました。

競技終了後は、恒例の懇親会が行われ、肌寒いながらもビール片手にバーベキューを囲み、各自持ち込んだ自慢の漬物やおにぎりを頬張りながら、日頃の作業の疲れを癒しつつ、互いの近況報告や酪農情報を交換し合ったりと、大いに親睦を深める１日となりました。　（I.M）

▲ まずは準備体操

▲ これもスポーツ「トワイン結びレース」

▲ お菓子の争奪戦

▲ バーベキューも大賑わい

札幌支所発

浜頓別町 池田牧場、自社スイーツ販売で消費者交流

本報6月号の「若手後継者の本音」でご紹介しました池田辰実さん（浜頓別町　池田牧場代表）が、7月11日㈬と12日㈭、札幌市内のデパートで自社農場のアイスクリームとカタラーナ（※）の販売を行いました。5月に出展を決めたものの、連日の悪天候で牧草収穫が思うように進んでいない状況ではありましたが、「生産者自らがお客様に接して初めてわかることはたくさんあるはず！」と貴重な時間を割いての出店となりました。チラシを見て来店した方、他の買い物のついでに立ち寄った方とさまざまでしたが、辰実さんと会話をして商品を購入されるお客様が多く、味の良さはもちろん生産者の顔が見える安心感が購買意欲を後押ししたようでした。この日は札幌も久しぶりの好天で気温が上がり、筆者もアイスをいただきましたが、ミルクの自然な風味とさっぱりとした甘さでとても美味しかったです。（T.H）

※カタラーナ：卵黄、牛乳、砂糖、小麦粉などで作ったプリンに似たカスタードソースを冷凍凝固させるスペインカタルーニャ地方の洋菓子。池田牧場では辰実さんが試作を重ねて2017年に商品化した。

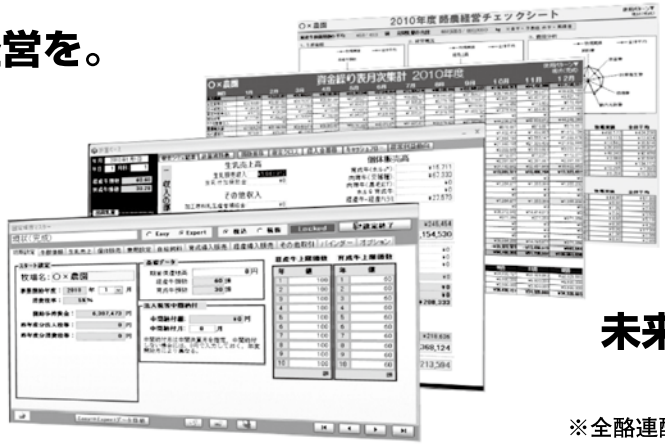
酪農家経営管理支援システム（DMSシステム）

Dairy-farm Management Support System

SaaS

会計ソフト『e酪農経営』がインターネット上で使用できるようになり、
情報管理やQ&Aの効率が飛躍的に向上しました！
ぜひ、ご体験ください!

一歩先ゆく経営を。



未来を予測し対策を。

※全酪連酪農経営シミュレータ 操作画面

DMSシステムでは　①経営診断、②中期経営シミュレーション、③月次決算の支援を行っています。

全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 酪農生産指導室　TEL 03（5931）8007

政府広報 | 内閣官房・財務省・国税庁・中小企業庁

事業者の皆さん

来年10月1日から始まる消費税の 軽減税率

準備していただきたいことがあります。

標準税率 10% と、飲食料品等に係る **軽減税率 8%** について
（酒類・外食を除く）

- **帳簿・請求書・レシート等の記載を税率ごとに区分する**ことが必要となります。
- **レジや受発注システムの導入・改修**が必要になることがあります。

消費税軽減税率制度説明会 を全国で開催しています。
ぜひご参加下さい。

■開催日時、場所については 軽減税率説明会 検索

■レジの導入等を支援する補助金について知りたい方は …… 軽減税率対策補助金 検索

■軽減税率制度について知りたい方は …… 軽減税率　国税庁 検索

2018年度 全酪協会の海外酪農研修

第26回

ロイヤル・ウィンターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 7日間

米国の酪農事情やカナダの大型牧場を知る絶好の機会。
ナイアガラの滝や、サンフランシスコも訪れます。

旅行期間

※ロイヤル・ウィンターフェアの日程が未発表のため
出発日など変更になる可能性があります。

2018年11月7日(水)～13日(火)

お問い合せ

企画・監修 **一般社団法人 全国酪農協会**
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-36-4〈全理連ビル3F〉
TEL.03-3370-7213 FAX.03-3370-3892
E-mail：ryokou@rakunou.org
〈担当：星野〉

旅行企画 実施 JTB 感動のそばに、いつも。 **(株)JTB関東**

※掲載写真はすべてイメージです。 ※撮影時のアングル、天候などの諸条件により、実際とは異なる場合があります。

ヒルマーチーズ工場

第26回

ロイヤル・ウィンターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修 7日間

2017年カナダの視察先にて

旅行代金 **417,000円**（お一人様）

一人部屋追加代金：89,000円

＊上記旅行代金の他に燃油サーチャージ：¥21,000、成田空港施設使用料（航空保安料含）：¥2,610、現地空港税：¥10,250、渡航手続き手数料：¥3,240、合計目安約¥37,100が別途必要になります。（2018年2月7日現在）その他米国・カナダの電子渡航認証システム実費：米国1,600円、カナダ700円、代行取得手数料各¥2,160（希望者のみ）が必要となります。

旅行期間 11月7日（水）～13日（火）7日間

※ロイヤル・ウィンターフェアの日程が未発表のため出発日など変更になる可能性があります。

食事条件 朝食5回、昼食2回、夕食4回

発着地 成田空港発・羽田空港着

最少催行人員 20名

参加申込締切日 2018年9月21日（金）

添乗員及び全酪協の世話役が同行致します。

日程	月日	都市名	現地時間	交通機関	スケジュール	食事
1	2018 11/7(水)	成田 発 シカゴ 着 シカゴ 発 トロント 着	18:45 15:30 17:50 20:33	UA882 UA843 専用車	空路、カナダ・トロントへ（シカゴ経由） 一日付変更編　通過一 着後、ホテルへ <トロント泊>	昼：機内 夕：○
2	11/8(木)	トロント ナイアガラ トロント	午前 午後 夕刻	専用車	専用車にて視察先へ **農場視察** 午後：ナイアガラ観光（ナイアガラクルーズ等） <トロント泊>	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	11/9(金)	トロント	終日	専用車	専用車にてロイヤルウィンターフェア会場 **Royal Agricultural Winter Fair** 世界最大級の室内農業カンファレンス **チャンピオンシップパレード観賞** <トロント泊>	朝：○ 昼：× 夕：○
4	11/10(土)	トロント 発 シカゴ 着 シカゴ 発 サンフランシスコ着	早朝 午前 午後 夕刻	専用車 航空機 専用車	ホテルより空港へ 空路、サンフランシスコへ（シカゴ経由） サンフランシスコ市内観光 ○フィッシャーマンズワーフ○ツインピークス○ゴールデンゲートブリッジ等 観光後、ホテルへ **全酪連サンフランシスコ所長による講演** <サンフランシスコ泊>	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	11/11(日)	サンフランシスコ	午前 午後	専用車	**チーズ工場視察** 自由行動 <サンフランシスコ泊>	朝：○ 昼：× 夕：×
6	11/12(月)	サンフランシスコ発	早朝 10:30	専用車 UA875	専用車にて空港へ 空路、帰国の途へ <機内泊>	朝：○ 昼：機内
7	11/13(火)	羽田 着	14:00		着後、通関を終え解散	朝：機内

※視察先は全て予定となります。また上記日程は、現地事情・交通機関の都合等により変更になる可能性がございます。
※利用予定航空会社：ユナイテッド航空（UA）
※宿泊ホテル：トロント／シェラトンセンター・トロント　サンフランシスコ／ホテル ニッコウ サンフランシスコ

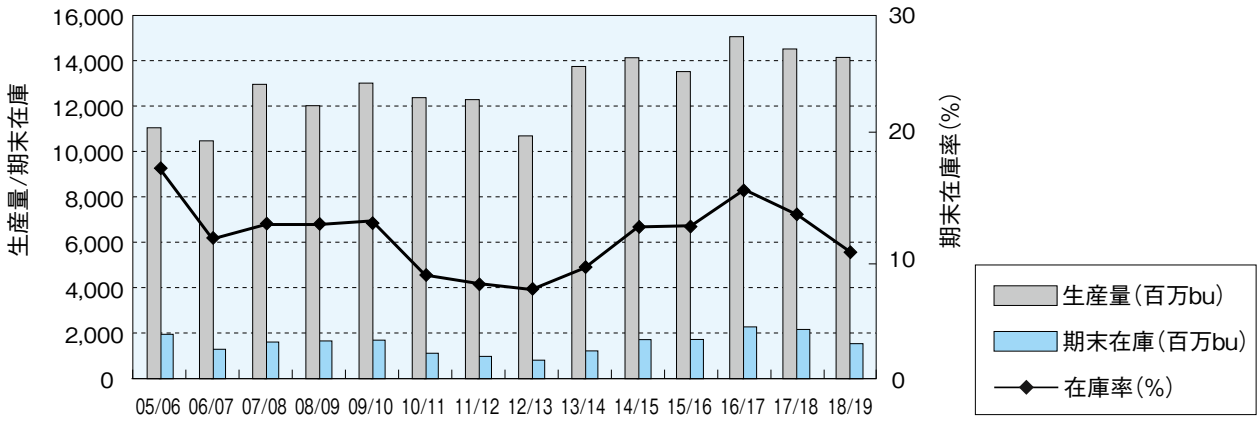
時間帯の目安

4:00	6:00	8:00	12:00	16:00	18:00	23:00	4:00
早朝	朝	午前	午後	夕刻	夜	深夜	

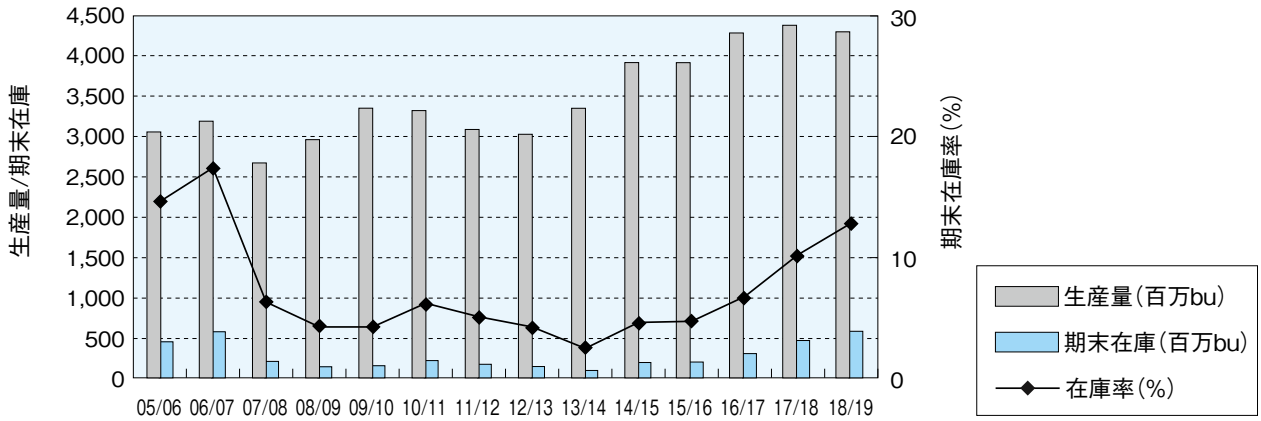
原料情勢　平成30年7月

		17/18年産	18/19年産
7月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積（百万エーカー）	90.2	89.1
	単　　収（ブッシェル/エーカー）	176.6	174.0
	生 産 量（ブッシェル）	146億400万	142億3,000万
	需 要 量（ブッシェル）	149億1,000万	147億5,500万
	期末在庫（ブッシェル）	21億2,700万	15億5,200万
	在 庫 率	13.6%	10.5%
トウモロコシ 相場動向	主要産地の生育状況は順調。各地で受粉も問題なく進んでいることから、18/19年産米国トウモロコシの供給量は潤沢になることが確実視されつつある。しかし、今後生育状況に懸念が発生した際には一気に値を上げる可能性が高く注意が必要である。		
大豆粕相場動向	中国の2018/2019年度の大豆輸入量は95百万ｔと大きく引き下げられた。中国には10百万ｔの大豆備蓄があるといわれており、菜種等の他原料への切り換えで米国産大豆の輸入分を補うと見られている。この流れが続くと、中国国内での大豆粕発生量は減少し、日本国内に流通する中国産大豆粕は堅調に推移していくと思われる。		
糟糠類	【一般フスマ】　国内製粉メーカーでは原料小麦から小麦粉への歩留まり（生産比率）が良いため晩砕量が減少している。このためフスマの発生量も減少している。需給は引き締まっている。		
	【グルテンフィード】　国産品は発生量が増加しているが、輸入品は価格が上昇している。他原料の需要が堅調なことからつられてグルテンフィードも堅調に推移している。		
海上運賃	パナマックス型市況は、上昇推移となった。引き続き石炭、穀物を中心に引合いが多くみられ、大西洋水域で上昇が目立った。特に黒海界隈では引合いが多く、上昇推移となった。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢　平成30年7月

北米コンテナ船フレート	多くの船社が7月1日付でGRI（海上運賃一斉値上げ）を決行しました。値上げ幅は最大で＄100／コンテナとなっており、加えて原油価格の上昇を受け、E-BAF（緊急燃料調整費）として＄50－＄60／コンテナの範囲で海上運賃に上乗せされています。海運業界ではアライアンスの再編や合併などが進み、航路・サービスの合理化が増えています。この影響で船腹の調整も進み、値上げの環境が整ってきたという見方もできます。現行の海上運賃は過去の推移からみても底値レベルであり、航路や船腹の調整が進むにつれ、さらなる値上げ基調となることは避けられないと考えられます。
ビートパルプ	【米国産】日本向け主力のミネソタ州及びノースダコタ州では5月20日前後で作付けが終了しました。その他の地域でも概ね5月中に作付けが終了しています。当初は、4月から5月初旬にかけての低温の影響で作付けの遅れが懸念されていましたが、その後天候は回復し作柄に大きな影響を及ぼす事態は避けることができました。現状では、初期生育に必要な土中の水分も十分であり、例年並みの作柄を予想しています。
アルファルファ	【ワシントン州】当地では１番刈が終了し、２番刈が始まっています。今のところ天候は良好で色目が良いものが発生しているとのことです。今年の１番刈は、総じて見た目は良いものの、葉付きが良いものは少ないのが特徴で、全体的に成分は低め、茎も当地らしい茎太品は少なく細めの傾向です。産地相場はPSW産の上昇の影響と当地における高成分品・上級品の不足感から、昨年の同時期に比べ＄30／ｔ前後上昇しており、2番刈以降の相場についても同様に堅調に推移する可能性が出てきました。
	【オレゴン州】クラマスフォールズでは、1番刈はほぼ終了しています。収穫期の序盤では一部で降雨被害が出ており、全体の約30％が雨当たり、約30％が軽微な雨当たり、残りの約40％が降雨を避けられた良品と推測されています。これら良品に対しては国内酪農家及び輸出業者から非常に強い引き合いが入っており、産地価格は上昇しています。クリスマスバレーでは、1番刈が終盤を迎えています。当地においても6月上旬と下旬に降雨が観測されており、良品に対してはクラマスフォールズ同様、旺盛な引き合いが入っています。ワシントン産の1番刈から十分な高成分品が発生しなかったこともあって良品への需要が高まり、クラマス・クリスマス両地域の相場は上昇している状況です。
	【ネバダ州／ユタ州】ネバダ州では1番刈が終了しています。当地においても収穫期に数度の降雨があったとのことで良品は限られているようで、これらの価格は他産地と同様に上昇しています。ユタ州では1番刈の収穫は大きな降雨被害はなく終えられたとのことで、全体的に葉付きや色目も良い状態で仕上がっているようです。しかしながら、良品を求める国内酪農家を中心に引き合いが強く、産地相場は堅調に推移しています。
	【カリフォルニア州】カリフォルニア州南部では、現在４番刈の収穫が終盤を迎えています。わずかに発生した上級品も中東勢が積極的に買付を行っている状況です。このため産地相場は引き続き堅調に推移しています。
チモシー	【米国産】産地では収穫作業が後半を迎えています。コロンビアベースンでは約80％が刈り取りを終えており、そのうち約半分が雨当たりの被害を受けています。エレンズバーグでも収穫は後半を迎えていますが、30－40％が何らかの降雨被害を受けているようです。これらは主として6月中旬に起こった激しい降雨によるもので、この影響で酪農向けの上級品の発生量は非常に限られることになりそうです。当初は軟化すると予想されていた産地相場も、上級品においては一転して昨年並みかそれ以上の価格で堅調に推移しつつあります。一方で低級品に関しては発生量も多くなることから、相場は軟化すると予想されています。
	【カナダ産】クレモナ地区では、5月から6月にかけての降雨量が例年の半分程度で、生育が思わしくないようで、収量にも影響が出る恐れが出てきました。収穫作業は7月中旬頃から順次開始される見込みです。レスブリッジ地区では、6月末から収穫が始まっていますが、春季の冷涼な気候の影響を受けて生育はやや遅れ気味となっており、7月上旬以降に収穫が本格化してくる見込みです。作付面積は17年産の良好な作柄と輸出向け及び国内向けからの安定的な需要を受け、昨年に比べ10％ほど増えているとのことです。
スーダングラス	主産地インペリアルバレーでは1番刈が80％程度終了しています。品質については残念ながら昨年と比べると全般的に劣っており、茎のばらつきや茶葉の混入が見られるものが多く、茎細品の発生が少ない状況です。産地相場は例年に比べ静かな状況ですが、茎細品や色抜け品などのいわゆるプレミアム品の買付は激化しているようで、中級品以下との価格差が例年以上に広がっていきそうです。また、6月は例年以上に湿度が出てきているため、今後収穫される遅播きの1番刈や早播きの2番刈などの品質に影響が出そうです。早播きの1番刈で想定よりも良品が生産できず、さらに産地相場も一部の上級品を除き軟調な傾向にあることから、生産農家の生産意欲は減退しており、2番刈の生産を取りやめる圃場も出始めています。
クレイングラス	**クレインは全酪連の登録商標です。**産地では2番刈を終え3番刈を待っている状況で、早い圃場では3番刈が始まっています。産地相場は引き続き旺盛な韓国からの需要により堅調に推移しています。今のところ天候は安定しているため、3番刈からも良品が多く発生すれば、産地相場も若干軟化する可能性もあります。また、相場を牽引していた韓国が新穀のチモシーの船積みを増やしていけば、クレイングラスへの引き合いが緩むことも期待できます。今後の産地相場は、天候や作柄に加え、韓国からの需要、並びにスーダン及びチモシーの新穀相場の影響を受けて推移していくものと考えられ、未だに不透明な状況と言えます。
ストロー類	日本および韓国からのストロー需要は引き続き堅調に推移しています。旧穀はすべて成約済みとなっており新穀の出荷待ちとなっています。産地では18年産の収穫作業が始まっています。今のところ天候も安定しており、単収は昨年に比べやや落ちるものの、品質的に大きな問題は発生していないようです。
オーツヘイ	【豪州産】豪州全域において、播種時期から初期生育期にあたる5月から6月にかけて、降雨不足の時期があり放牧草の生育が不十分となったため、国内からの需要が増加しています。このため、生産農家の在庫や輸出業者の余剰在庫が放出されており、2017年産の繰り越し在庫は少ない状態で新穀を迎えると予想されています。特に低級品を中心に国内需要へ対応したため、これらの産地相場は急激に上昇しています。西豪州では播種後の降雨不足は深刻化するとの懸念がありましたが、5月後半からまとまった降雨が見られ、生育も回復しており状況は改善しつつあります。東豪州では、地域によっては未だに平年並みの生育状況に達していないところもあり、今後の降雨量を注視していく必要があります。作付面積は昨年の良好な作柄を受けてやや増加しているようです。

人事異動

新	旧	氏名
■平成30年8月1日付異動発令		
企画管理部　総合企画室長	購買生産指導部　酪農生産指導室課長	丹戸　靖
総務部長	酪農部長 兼 生乳共販課長 兼 乳製品工場課長	戸辺　誠司
酪農部長 兼 生乳共販課長	仙台支所長 兼 酪農課長 兼 三戸食肉事業所長	佐藤　弘
品質保証室長	品質保証室　課長	松島　啓二
品質保証室　課長	企画管理部　総合企画室課長	丸山　惣太郎
札幌支所長 兼 酪農課長	札幌支所　次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長	矢口　正史
札幌支所　次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長	大阪支所　次長	河野　巧
札幌支所　畜産課長代理	総務部付出向　全酪フーズ㈱ 大阪支店	柳沢　光浩
仙台支所長 兼 酪農課長 兼 三戸食肉事業所長	名古屋支所長 兼 酪農課長 兼 指導組織課長	白鳥　建樹
東京支所　購買畜産課長代理	札幌支所　畜産課長代理	髙岩　秀典
名古屋支所長 兼 酪農課長	札幌支所長 兼 酪農課長	田中　晴生
福岡支所　購買推進課長代理	札幌支所　購買推進課	前田　遼太
全国酪農飼料㈱ 鹿児島工場長	品質保証室長	徳永　利一
■平成30年8月1日付昇進発令		
総務部　人事室課長代理	総務部　人事室	松本　千穂
購買生産指導部　酪農技術研究所長代理	購買生産指導部　酪農技術研究所	猪内　勝利
酪農部　副部長 兼 酪農企画課長 兼 乳製品工場課長	酪農部　酪農企画課長	千田　稔
福岡支所　購買推進課長	福岡支所　購買推進課長代理	根岸　知紀
福岡支所　畜産課長代理	福岡支所　畜産課	名本　修
■平成30年8月1日付兼務（兼務解除）発令		
企画管理部長	企画管理部長 兼 総合企画室長	大森　一幸
名古屋支所　購買畜産課長 兼 指導組織課長	名古屋支所　購買畜産課長	炬口　浩司
福岡支所　次長 兼 畜産課長	福岡支所　次長 兼 購買推進課長	鈴木　有希津
全国酪農飼料㈱ 鳥栖工場長　購買生産指導部付出向	全国酪農飼料㈱ 鳥栖工場長 兼 九州支店長　購買生産指導部付出向	安田　稔高

北海道 乳牛産地情報

平成30年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ↑……強含み ↗……やや強含み →……横這い ↘……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	48～58	↘	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計102.6%、累計で101.4%、苫小牧管内月計で102.8%、累計で101.3%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月～11月上旬分娩腹が中心となります。7月の同地域の乳牛市場の平均は上がっていますが、都府県の猛暑が8月も続き、引き合いが弱くなることが予想されるため、庭先購買価格は横這いで推移するものと思われます。乳量成績や体型審査成績を持った高能力牛が出てくる地域ですので、ご希望があれば、お問い合わせください。育成牛は対象月齢のものが来年の夏産みとなってきますので、やや弱含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	78～88	→	
	経産牛	45～50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	60～70	→	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.6%、累計で101.4%、中標津管内月計で102.1%、累計で101.8%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩腹が中心となります。7月の管内乳牛市場は導入需要が旺盛だった事もあり据置～上げの結果となりました。引続き都府県のメガファームの導入が活発な事、道内においてもクラスター事業を利用した牛舎が完成し規模拡大農家の活発な導入が見込まれる事から相場は強含みで推移するものと思われます。また、都府県の猛暑の影響、道内の1番牧草の作況の悪さが今後、乳牛の取引状況にどんな影響を及ぼすか注視が必要となります。
	初妊牛	90～96	↑	
	経産牛	60～70	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	50～60	↓	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で105.6%、累計で104.6%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月～11月分娩腹が中心となります。7月の同地域の乳牛市場が横這いで推移し、また8月の市場が下旬まで開催されないことから、庭先購買価格も横這いで推移するものと思われます。7月は高値で動いた雌雄選別腹も落ち着きを取り戻してきています。育成は対象月齢の牛が来年の夏産みとなってきますので、弱含みで推移するものと思われます。今夏の都府県の猛暑が初妊牛の導入にどのような影響を及ぼすのか、日々状況が変化することが予想されますので、近況につきましては、都度お問い合わせ頂きたくお願い申し上げます。
	初妊牛	85～95	→	
	経産牛	50～60	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	50～60	→	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で101.6%、累計で100.8%、北見管内では月計で104.7%、累計で102.3%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月～11月分娩が中心となります。先月も導入需要が活発だったこともあり、夏時期の分娩でありながら相場は大きくは下がりませんでした。今後分娩時期が涼しくなるため価格が大きく下がるとは考えにくく、相場も横這いのまま推移するものと思われます。先月引き合いが強かった雌雄選別腹は、少し落ち着きを取り戻し、F1腹と同程度の価格帯になると予想されます。
	初妊牛	83～88	→	
	経産牛	50～60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	55～65	→	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は103.5%、累計で102.5%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月～11月分娩腹が中心となります。道内における生乳生産は前年を大きく上回って推移しており、今後についても規模拡大農家を中心に生乳生産意欲が旺盛な状況が続くものと思われます。また、道内の牧草の収穫状況ですが、道内全域で6月からの長雨の影響を受け、1番草の刈取り時期が大幅に遅れており、品質低下も心配されております。初妊牛価格につきましては、今年度も昨年度同様に夏場に取引される初妊牛価格は下がらなかった為、秋口の取引においても大幅な変動はないものと思われます。今後の初妊牛の資源状況としては、全体的に増えてくるものと予想されます。
	初妊牛	85～95	→	
	経産牛	55～65	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第9回酪農いきいきフォトコンテスト」（第47回全国大会にて開催）で応募頂いた特選の作品「あげるから、焦らないで！」（宮城県　柴田耕太郎氏 撮影）です。

平成30年8月10日発行（毎月1回10日発行）
全酪連会報 8月号 No.635
●編集・発行人　戸辺誠司
●発行　全国酪農業協同組合連合会
〒108-0014　東京都港区芝四丁目17番5号
TEL 03-5931-8003　http://www.zenrakuren.or.jp/

編集後記

●猛暑日が続きますね。夏バテしていませんか？
●紙面でもご紹介したように、7月19～20日、グランドプリンスホテル広島において「第47回全国酪農青年女性酪農発表大会」を開催しました。
全国の皆様と一緒に盛大な大会を終える事が出来たと思います。

今月の らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介

おとなしい牛
那須塩原市立青木小学校（関甲信）5年　船山 莱翔

今月の入賞作品は…
那須塩原市立青木小学校（関甲信）5年の船山 莱翔さんの作品です。
３年前に秀作をとった船山さんの作品が、入選作品のトップです。前回同様に斜め前から描かれた牛さんは立体感があり、今回は更に堂々と凛々しい牛さんに仕上がっています。成長の片鱗がうかがえます。同じ黒い色でも顔や首や横腹など筆のタッチを細かく使い分けてかっこいい牛さんが描けています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第45回らくのうこどもギャラリー」で全国833点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催　全国酪農青年女性会議